しあわせな人を　ふやすまち。

20年後、どんなまちになってほしいと問われれば、

しあわせな人を増やすまちになってほしい。

人は、眉間にしわを寄せてがむしゃらに頑張って、

成功してから幸せになるのではなく、

しあわせを感じて、感謝している人こそが、成功するのだとか。＊

だから、まずはしあわせを感じられるまちにしたい。

私たちが考えたしあわせをつくる6つのビジョンです。

＊『幸福優位の7つの法則』ショーン・エイカー著（徳間書店刊）

20 After years

1

2

3

4

5

6

2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026
2027
2028
2029
2030
2031
2032
2033
2034

ふつうに、くらせる、しあわせ。

幸せを追求するには、土台が必要。

それは、最低限の衣食住が満たされ、

健康で、文化的な生活ができることが大切だと考えました。

単なる金銭的豊かさではなく、

すべての人が、地域の中で排除されることなく、

役割や生きがいを持ち、安心して暮らせることが、

心の豊かさにつながり、さらには、体の健康にもつながっていきます。

贅沢ではなく、上質に――。

「ふつう」が良くなる、つばめでありたいと思います。

Mission

□困っている人を助けられるまちづくりをする

□誰もが、心身ともに健康でいられるような機会の提供

□誰もが、生きがいを持って生きられる社会の実現

□生活の質を向上させるための感性を磨く

つばめらしさが、あふれてる。

2

あたりまえだと思っていたことが、実はすごいことなんだと、
地元を出て、はじめて気がつきました。

きれいな水があって、地元の旬の野菜が食べられること。
燕市出身といえば、「金属産業が盛んなところでしょ」と、
かなりの確率で知っていてくれたこと。
地元に帰れば、田んぼの緑や蛙の鳴き声に癒され、
国上山の紅葉は、やっぱりきれいだなと感動し、
大河津分水の雄大な風景に、先人への感謝の念が湧く――。

昔は、あたりまえだと思っていたことが、
今、とても誇らしく感じます。
どんな土地で生まれ育ったのかを語れるということは、
とてもしあわせなことなのだと、気づきました。

一方で、日本が、世界がどんどん均質化しているのも事実です。
だからこそ、常につばめらしさを創造することも必要だと思います。
受け継いだつばめの魅力と新しい感性を掛け合わせ、
100年、200年先にも、魅力的なつばめらしさが
生まれ育まれる土壌をつくっていきたい。
つばめらしさが、あふれるように。そこに生きる誇りもあふれるように。

Mission

□つばめらしさとは何かを問い続け、表現をしてみる

□つばめの先人の偉業、歴史、産業、自然といった郷土を学ぶ機会をつくる

□歴史的建造物や祭り、職人技など、先人が守ってきたものを引き継ぎ、未来へ渡す

□新しい価値を創造できる文化を醸成し、感性を磨ける機会をつくる

□つばめの魅力を発見、編集、発信できるクリエーターを増やす

□つばめの魅力的なあたりまえを媒体とした内外の交流を増やす

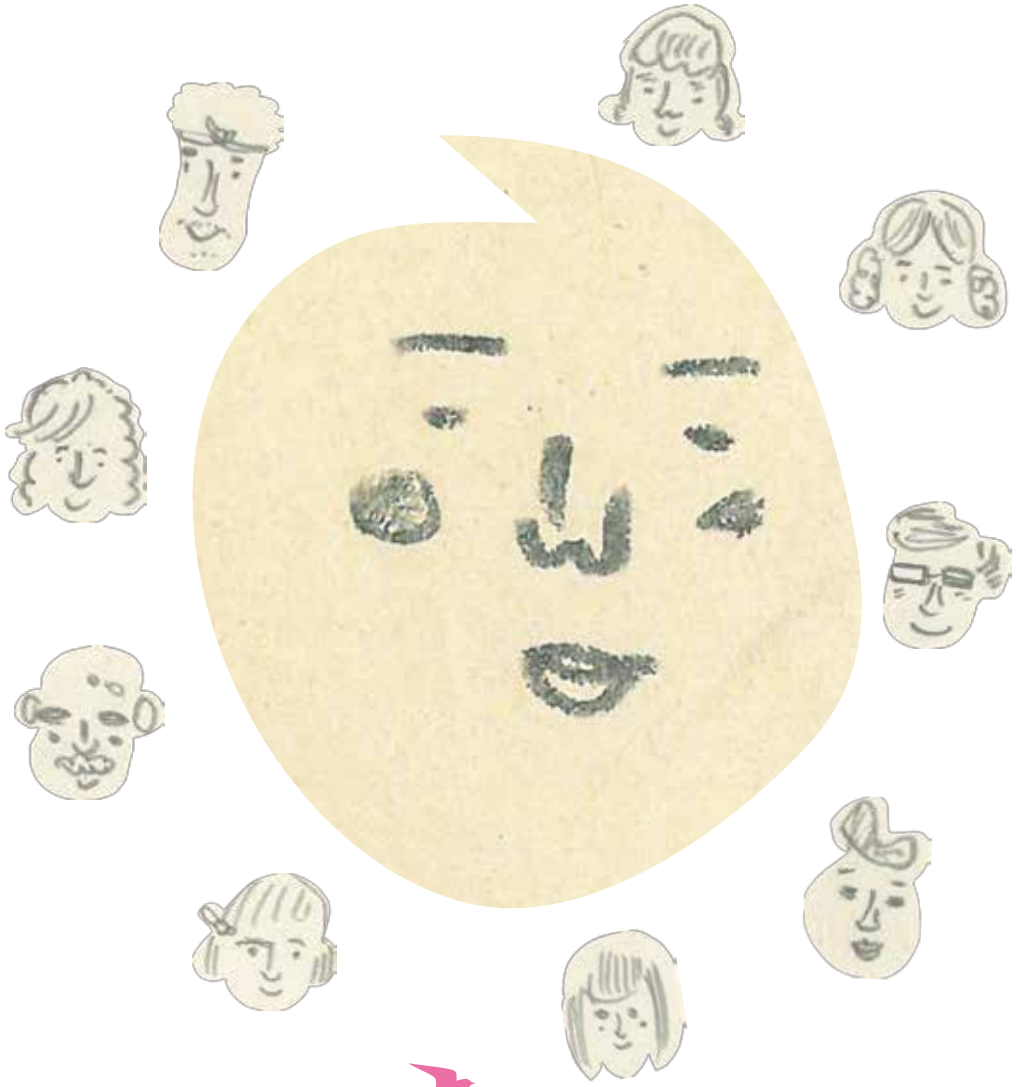
こどもの笑顔を
まんなかに。

3

こどもが笑顔でいられるまちは、
とてもしあわせなまちだと思います。
なぜなら、こどもは未来そのものだから。
彼らの笑顔は、将来の希望です。

こどもが笑顔でいるためには、親も笑顔でなくてはいけません。
しかし、核家族の子育て環境は、子育て世代の孤立感を深めています。
頼る人もおらず、仕事もあきらめ、ひたすらこどもと向き合う日々。
これでは、親も苦しいです。

ならば、地域が家族になって、地域みんなで子育てができて、
一緒に育つことができたら、どんなに素敵なことだろうと考えました。
こどもの発するエネルギーは、お年寄りも元気にさせてくれます。
お年寄りの知恵は、親世代にも子世代にも貴重です。
こどもが「地域のかすがい」になるまち、つばめ。
こどもの笑顔が地域をつなぐまちを目指して。



Mission

□地域が家族という発想で、支え合えるまちづくり

□こどもを中心とした多世代交流や子育て支援のしくみをつくる

□こどもが生きる力を身につけられる地域共育の実践

□お年寄りが子育てに参加することで、新たな生きがいを得られる場づくり

つながって、ありがとうがめぐるまち。 4

どんどん社会が便利になって、誰ともつながらなくても、
生きて行ける時代になったと言われています。
たしかに、コンビニやスーパーに行けば食べものは買えるし、
インターネットでバーチャルな友人を得ることも可能かもしれません。
誰にも頼らないということは、誰からも頼りにされないということ。
それは本当にしあわせなのでしょうか？

しあわせとは何かを考えたとき、
誰かに感謝されたり、大切な人が笑顔でいたり、
共感しあえたり、感動をともにできたりと、
しあわせだなと感じる時は、かならず誰かが存在していると気づきました。
私たちがたどり着いたひとつの幸福論です。

人とのつながりは、ときにしがらみと言われることもあるでしょう。
それでも、お互い様と言い合えて、誰かとつながっていることは、
いざという時に、助け合える安心感があると思うのです。

ありがとう。

しあわせを生み出すこの言葉が、つながって輪になってめぐっていく——。
そんなつばめをわたしたちはつくりたいのです。

Mission

□人と人とがゆるやかにつながり、いざという時に助け合える地域づくりをする

□市日やマルシェ、個人商店といった商いによるコミュニティ醸成能力を
　再認識し、まちづくりに生かす

□共感と感動を生み出せる場をつくり、人とつながるきっかけを生み出す

□多世代交流を通して、つばめという大家族をつくる

□認め合い、磨き合い、感謝しあえる人間関係をつくる

わたしが輝くと、まちも輝く！

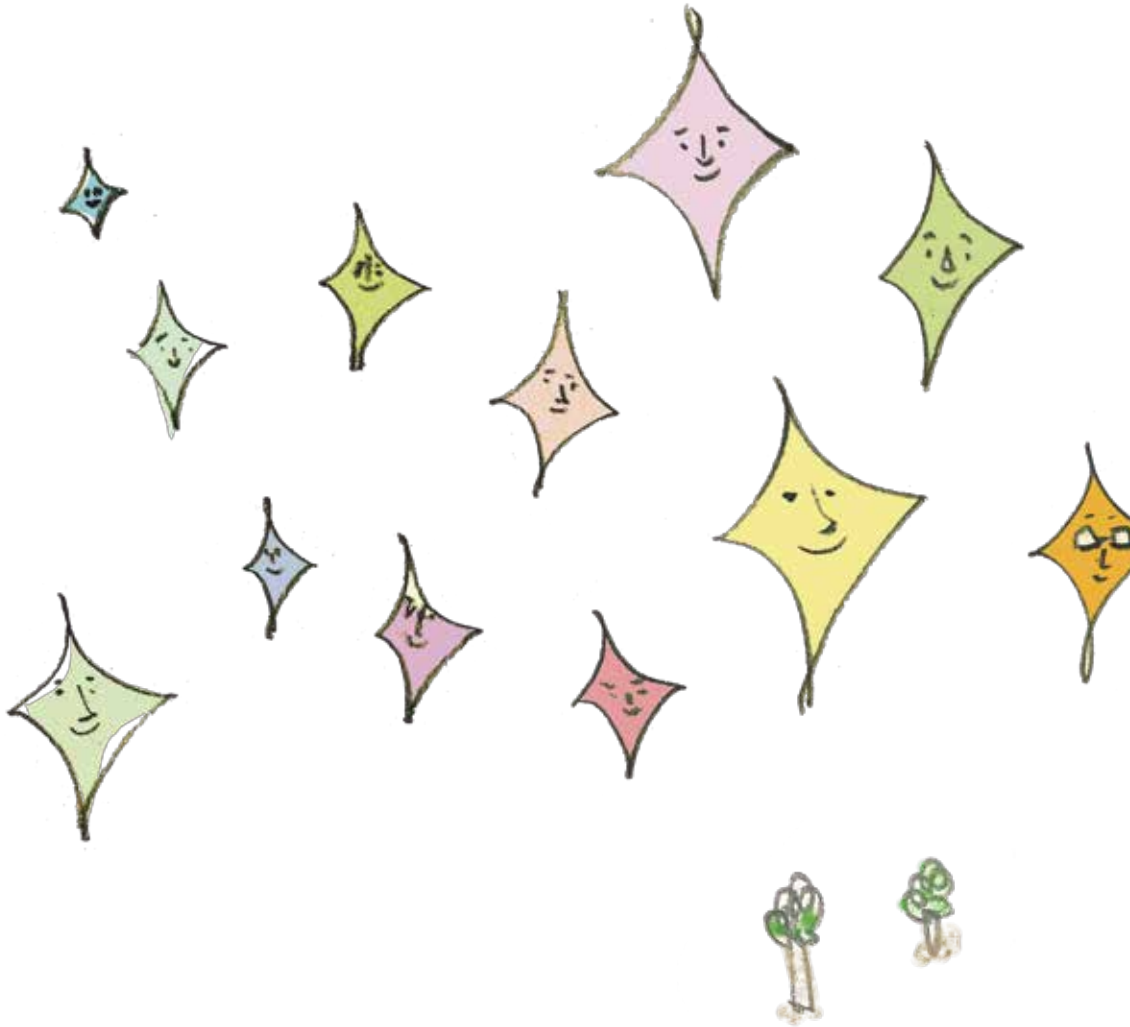
5

若者が戻ってきたい、残りたいと思えるまちは、
どんなまちなのかと考えたら、
自分が活躍できる場があるまちだと気がつきました。

自分の強みを生かして、自己実現でき、
自分らしく生きられるまち。

仕事がなければ、帰ってこられないと、多くの人は言いますが、
もともとつばめは、自ら起業して始まった会社がたくさんあるまち。
たくさんのチャレンジがあったからこそ、このまちができているのです。
だからこそ、今の若者のチャレンジも応援できるまちにしたい。
失敗しても、再チャレンジが許される、困ったら相談にのれるような、
懐のひろいまちにしたいのです。

ゆくゆくは、若者に触発されて、いろんな世代が夢の実現に
チャレンジできるようになる。
一人ひとりが自分らしく輝けるまちは、まちもキラキラ輝いて見えるはずです。



Mission

□若者の起業支援や自己実現ができる場の提供

□若者が、若者だけでやりたいことを実現できる機会の提供

□誰もが自分の夢を実現できるように応援できる機会の提供

□出郷者との交流を持ち、戻って来たくなるような情報の提供

未来を語り合うことは、まちを愛すること。

6

わたしたちは、半年間にわたってつばめの魅力や課題を掘り下げ、

つばめで生きる喜びやしあわせとは何か、

どんな未来を望んでいるのかを話し合ってきました。

その中で感じたのは、この間まで知らなかった人たちと、

ふるさと、つばめについて語り合えたこと、

そのこと自体に深く感動し、幸せを感じました。

課題はたくさんあるけれど、誰もがつばめが大好きで、

このまちをどうにかしたいと思っている人が、

こんなにたくさんいることに、勇気づけられました。

つばめ若者会議がなければ、もしかしたら自分自身も

こんなにつばめが好きだったとは、気づかなかったのかもしれません。

声に出して、膝をつきあわせ、未来について語り合う。

このしあわせを多くのみなさんと共有していきたいと思います。

Mission

□つばめ若者会議の継続的開催

□さまざまな価値観を持った人たちが、認め合いながら対話ができる場の提供

□つばめへの愛着、郷土愛を表現する機会の提供

□共感を生み出す場をつくり、「感動できるまち、つばめ」を実現する